

6 章


新しい森林管理区分 (ゾーニング) 及び森林管理方針



森林管理区分（ゾーニング）とは、森林を機能ごとに区分し、それぞれの区分に応じた整備方針や施業方法を定めた森林配置の目標となるものです。また、森林の多面的機能を発揮するための効果的な森林整備を行うためには、重視すべき機能に応じた目標林型を設定する必要があります。

そこで、まず将来的に目指す森林の姿を大別して分類し、本市において重視する森林の機能別に「新しい森林管理区分（ゾーニング）」を設け、設定基準、区分ごとの森林管理方針などをまとめました。

新しい森林管理区分

ゾーニング	目的	公益的機能	森林整備の基本方針 (目指す姿)
水源涵養機能 	雨水を吸収して水源を保つとともに河川の流量を調節する働き。	水源涵養機能	下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設などが整備されている森林を目指す。
土砂災害防止 ・土壌保全機能 	山崩れや土砂流出などの山地災害を防止する働き。	山地災害防止 土壌保全機能	下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林を目指す。
生活環境保全機能 	生活環境を快適にする働き。	快適環境形成機能※	樹高や枝葉の遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林を目指す。
保健文化維持機能 	貴重な自然環境の保全や、野生生物の生息の場、森林レクリエーションなど森との触れ合いの場となる機能。	保健・レクリエーション機能	身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種などからなり、住民などに憩いと学びの場を提供する森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林を目指す。
		文化機能	史跡・名勝などと一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林を目指す。
		生物多様性保全機能	原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林を目指す。
木材等生産機能 	木材などを生産する働き。	木材等生産機能	林木の生育に適した土壌を有し、木材利用上、良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道などの基盤施設が適切に整備されている森林を目指す。

※森林管理区分（ゾーニング）における名称は「生活環境保全機能」としています

多面的機能と公益的機能

森林は、国土の保全や水資源の涵養、良好な自然環境の形成などの様々な機能（「多面的機能」）を有しており、特に産業・経済的な面以外の様々な機能のことを森林の「公益的機能」と呼んでいます。

森林の持つ多面的機能は、多岐にわたり、本来総合的かつ一体的に評価されるべきものですが、便宜的に水源涵養機能、山地災害防止機能、生活環境保全機能、保健文化機能、木材等生産機能の5つに分類されています。「公益的機能」とは、これらの機能から「木材等生産機能」を除いたものとして用いられています。

森林の果たす安全で良好な環境を提供するという役割は、私たちの生活において非常に重要なものですが、普段の生活では実感しにくいいため、貨幣的な経済評価が行われることがあります。本市内の評価額は合計1,153億円と想定されます（広島県の評価額から本市の森林面積で按分）。

森林の面積は国土の7割、本市では6割を占めていますが、その多くは個人が所有する私有林です。森林の公益的機能を持続するためには、森林所有者にとどまらず、市民、行政など全ての人が山の価値を認識し、協働することが必要です。

森林の有する多面的機能



資料：林野庁「平成29年度森林林業白書」をもとに作成

森林の有する機能の経済評価

機能区分	広島県 評価額	東広島市 評価額
水源涵養機能（水資源の貯留・洪水の緩和・水質の浄化）	5,300億円	344億円
表面侵食防止機能	9,527億円	618億円
表層崩壊防止機能	2,076億円	135億円
保健休養機能	516億円	33億円
二酸化炭素吸収	312億円	20億円
化石燃料代替	49億円	3億円
合計	17,780億円	1,153億円

1

ゾーニングにおける目指す森林の姿

東広島市の目指す森林の姿について、「持続的な管理と活用により公益的機能が十分に発揮されている森林」を共通事項とし、発揮する機能の面から、以下の3つに分類します。

生産林

経済活動を通じて活用し、管理される森林

木材生産などの経済活動を主目的に管理される森林が主な対象です。持続的な生産活動と公益的機能が十分に発揮されている状態の両立を目指します。

環境林

(1) 経済活動以外の様々な活動を通じて活用し、管理される森林

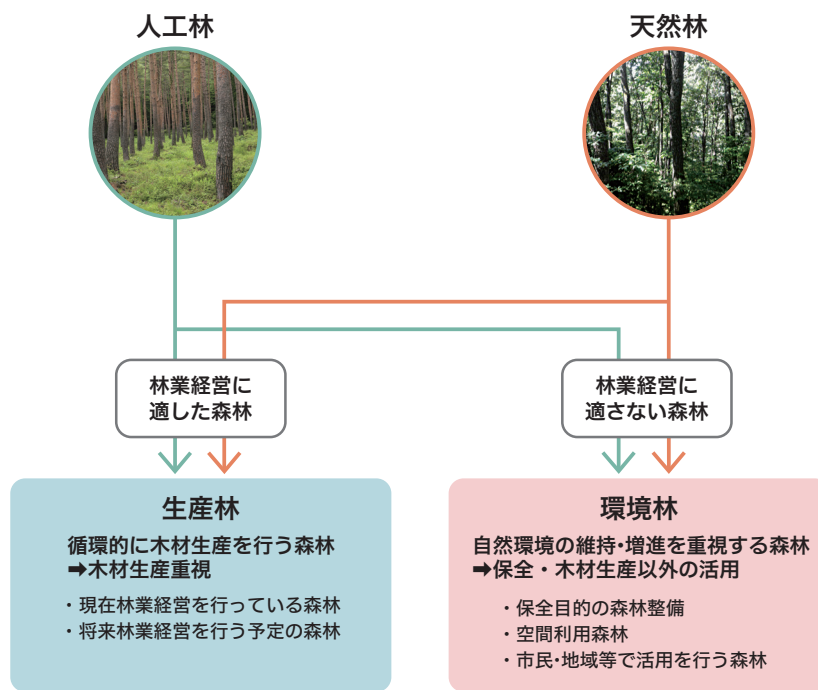
経済活動以外に市民・地域による森林空間利用など、様々な活動を積極的に行いながら管理される森林が対象です。市民の生活に密着した森林であり、公益的機能の発揮が重要視される森林でもあります。

(2) 積極的な活用はしないものの、公益的機能が発揮される森林

活用には不向きな条件の森林や、市民の生活環境から離れた奥山など、継続的に森林活用をされない森林が対象です。積極的な活用よりも、公益的機能の発揮を優先し、市民の生活に悪影響を及ぼさないこと、豊かな自然環境を維持することが求められます。

上記の分類における「生産林」とは木材生産機能を重視した森林を指し、「環境林」とは公益的機能の発揮を目指す森林を指します。林業経営の適地である人工林などを「生産林」とし、適地でない森林は「環境林」としますが、両者は現在に合わせた流動的な分類であり、人工林でも経営に適さない場所は「環境林」への移行を促し、天然林でも経営の条件の良いところは「生産林」となることもあります。

生産林・環境林の考え方



個別の森林における、重視すべき機能ごとの「設定基準」や「森林管理方針」はゾーニングで定める

2

ゾーニング方針

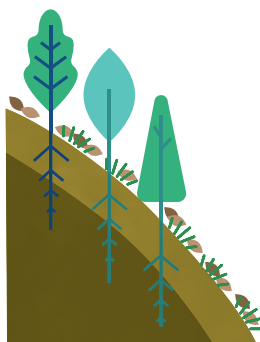
森林の有する公益的機能のうち「山地災害防止・土壌保全機能」、「水源涵養機能」、「保健・レクリエーション機能」「生活環境保全機能」「木材等生産機能」の5つの機能を重視した森づくりを行うために、それぞれについて新たにゾーニング方針を定めました。

この度定めたゾーニング方針に基づき、森林整備計画において、各地域の森林の具体的なゾーニングを行います。

ゾーニングにおいて重視する森林の5つの機能

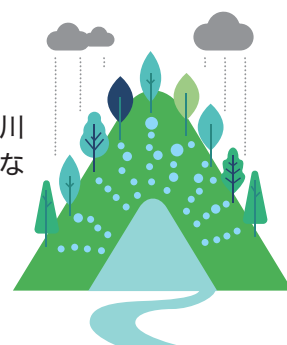
① 山地災害防止・土壌保全機能

表層土壌の流出を防止し、山地災害の被害を低減させる



② 水源涵養機能

森林の保水力を高め、河川の流量を安定させ、良質な水を供給する



③ 保険・レクリエーション機能、文化機能

貴重な自然環境を保全し、市民が森林と親しむ機会や環境教育の場を増やす



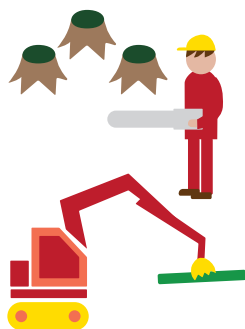
④ 生活環境保全機能

気候変動緩和や大気浄化など、豊かな生活環境をつくる



⑤ 木材等生産機能

人工林を適切に管理し、効率良く木材を生産する



※各機能によるゾーニングは重複する場合があります。

※地球環境保全機能（地球温暖化を緩和する働き）は、全ての森林において機能するものであるため、ゾーニング方針における区分設定は行っていません。

① 山地災害防止・土壌保全機能

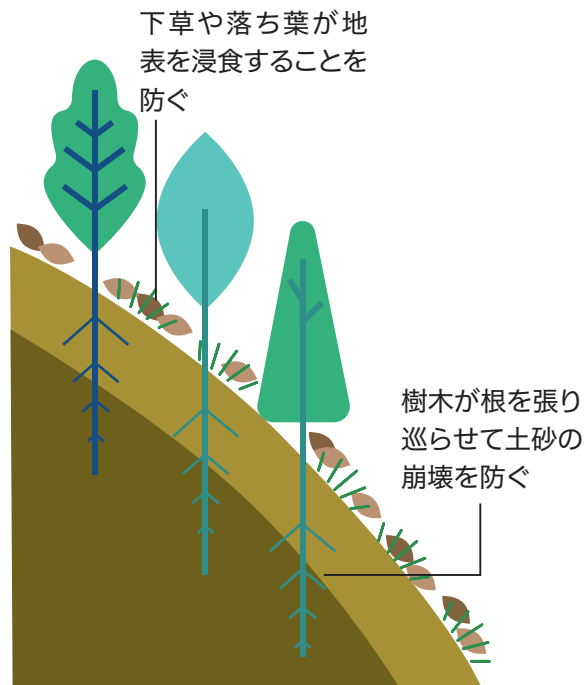


山地災害防止・土壌保全機能は、山崩れや土砂流出などの山地災害を防止する機能です。

本市では平成30年7月豪雨の、記録的豪雨により各地で山腹崩壊が発生しました。特に、当市の大半でみられる花崗岩由来のマサ土などのぜい弱な地質地帯において、この度の災害においては地質による大きな違いは認められないものの、土石流、山腹崩壊、花崗岩地帯におけるコアストーンなどの巨石の流下などにより、下流域に甚大な被害が発生しました。

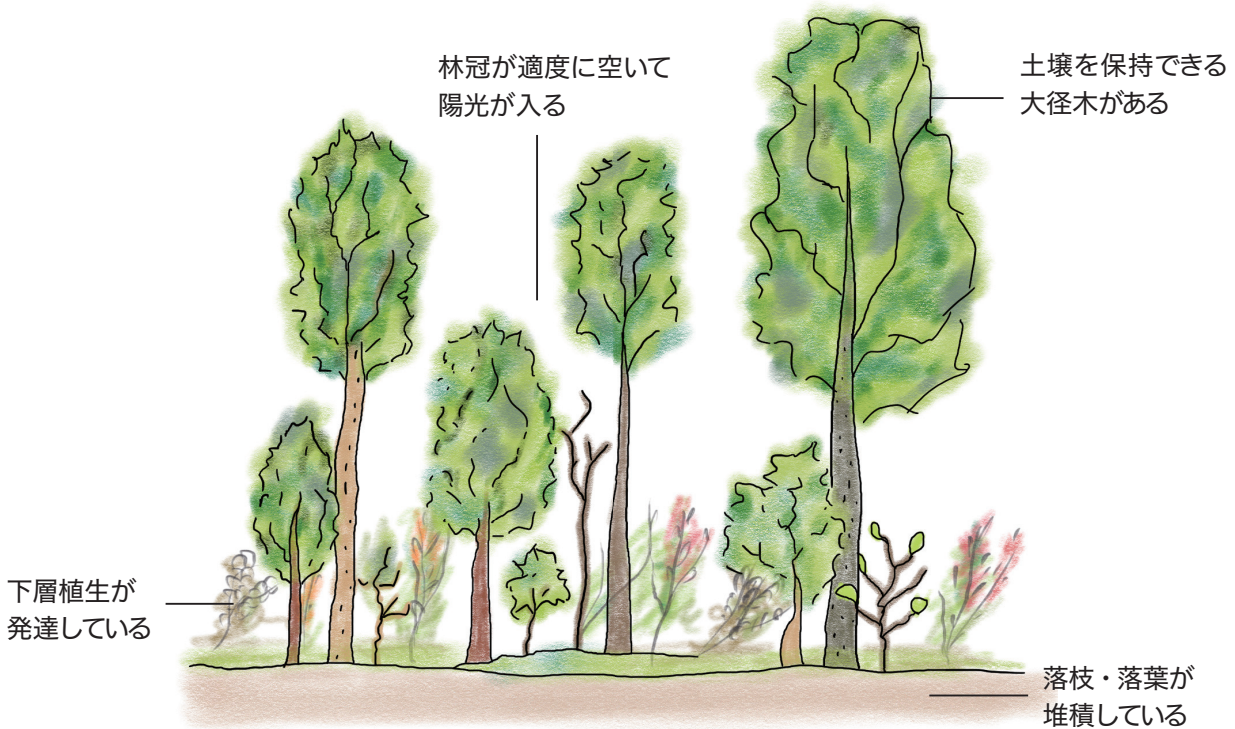
山地災害が発生しやすい森林は、手入れ不足で過密な針葉樹人工林とされています。一方、山地災害防止機能の高い森林は、多様な樹種からなる針広混交林です。

山地災害防止・土壌保全機能を十分発揮させるためには、地形・地質的な特性を踏まえた属地的なゾーニングを行い、適切な森林整備を行う必要があります。



期待する機能	表層土壌の流出を防止する機能
対象森林	山地災害の発生により人命・人家などへの被害のおそれがある又は過去に発生したことがある森林など、土砂の流出や土砂の崩壊の防備などの働きを重視すべき森林
ゾーニング方針 (設定基準)	(1) 保安林（土流、土崩、なだれ、落石）、砂防指定、急傾斜地、地すべり防止 (2) 山地災害危険地区、土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域・特別警戒区域 (3) 重点防災ため池の上流部 ※(2)(3)については、ハザードマップ・広島県ため池マップを参照して整理
森林管理方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 林冠が詰まっておらず適度に陽光を入れ、立地環境に適合した下草が維持され、かつ林地面が荒らされず土壌が豊かで、常に落葉・落枝が地表面を被覆している森林を目指し、積極的な間伐を推進する。 ● 谷筋の中央は流木とならないよう劣勢木を除去し、大径木については流木の発生を抑制するために残す。また、小規模崩壊の恐れがある場合には施設整備を行う。

山地災害防止・土壌保全機能が発揮された森林のイメージ



協議会・部会・関係者ヒアリングでの主な意見

- 平成30年7月豪雨において、林道の崩落など被害があった。
- 天然林を何も管理しない状態では災害に強い山とはいえない。
- 土砂災害の防止機能ができるだけ下がらないようにしつつ、森林の維持が必要だ。
- 災害に強い山への要望はあるが、過去の経験による方策になり、災害対策のノウハウがない。

市民アンケート・森林所有者アンケートの結果

市民アンケート結果

- 「東広島市の森林が機能を発揮していると思うか」の問に対して、「山地災害防止」の機能を「十分発揮している」「ある程度発揮している」との回答は合計35%と最も低い傾向にあった。
- 「東広島市の森林にとって重要な機能は何か（3つ選択）」の問いに対して、全回答者の50%が「山崩れや洪水などの災害を軽減する」を選択し、最も高い傾向にあった。

森林所有者アンケート結果

- 「所有している森林の方針」について、「土砂災害を予防したい」との回答が24%と、「景観を保持したい」(32%)に次ぐ回答率となった。
- 「森林の機能について最も期待すること」については、「山が崩れるのを防ぐ働き」との回答が38%と最も高い傾向にあった。

② 水源涵養機能



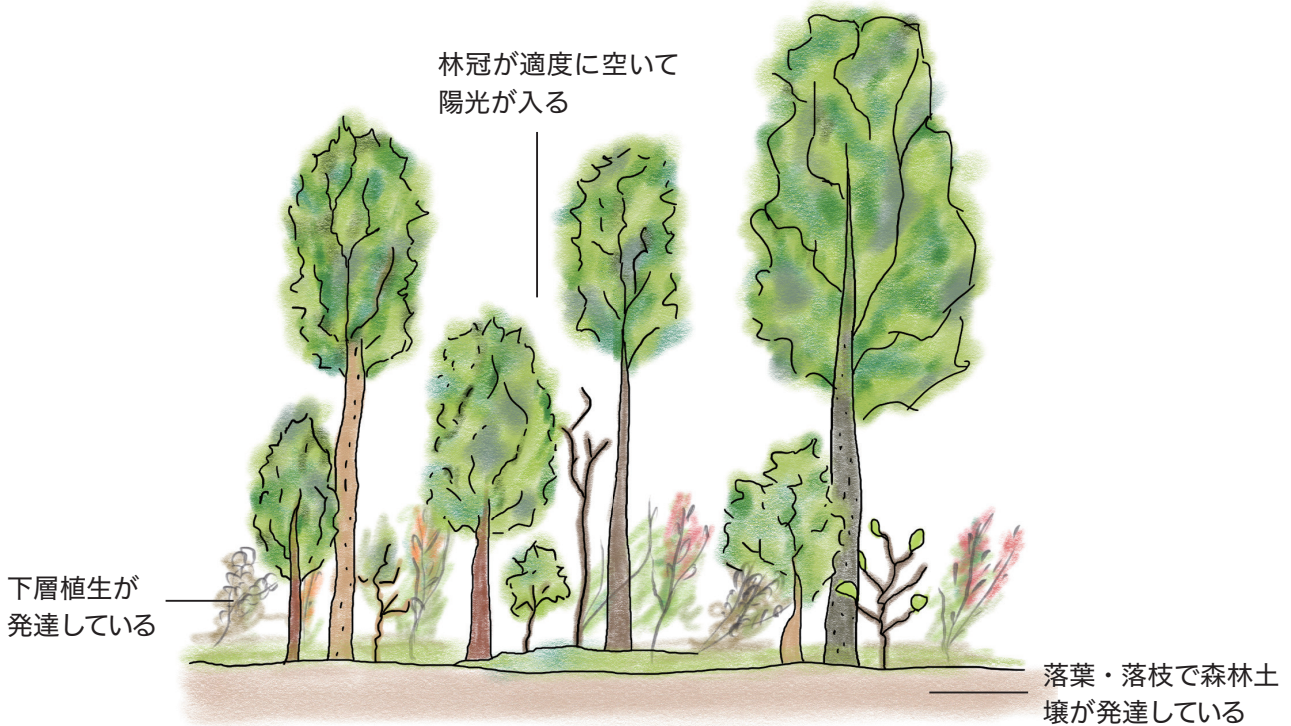
水源涵養機能は森林の土壌により雨水を地下に貯め、川へ流れ込む水の量を抑えて洪水を発生しにくくするとともに、雨の少ない時期にも継続的に水を供給し川の流量を安定させる機能です。また雨水が森林土壌を通過することで水質をきれいにする機能もあります。

本市では災害防止の観点から森林の保水力や河川の水量調整機能を高める必要があります。また、本市の水の利用は9割以上を県からの供給で賄っていることから、森林の機能発揮による水資源の確保や維持が必要です。また、日本三大銘醸地をして知られる本市において、水量だけでなく、良質な水の確保・安定供給も求められているところです。



期待する機能	洪水被害低減と良質な水を安定供給する機能
対象森林	下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌が求められる森林
ゾーニング方針 (設定基準)	(1) 水源林造成事業実施区域 (2) 保安林（水かん、水害、干害） (3) 上記に準ずる機能を有する森林
森林管理方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 林冠が詰まっておらず適度に陽光を入れ、立地環境に適合した下草が維持され、かつ林地面が荒らされず土壌が豊かで、常に落葉・落枝が地表面を被覆している森林を目指し、積極的な間伐を推進する。 ● 特に上層木からの落葉落枝、枯死木の堆積による森林土壌の形成・発達を重視することで、浸透・保水能力があり安定した流量を下流に供給できる森林を目指す。また積極的な間伐により蒸発散量を減らし、良好な光環境を維持する。

水源涵養機能が発揮された森林のイメージ



協議会・部会・関係者ヒアリングでの主な意見

- ため池が多いのはもともと水が不足している地域だからであり、「水が大切だから山を守るのだ」という意識を持ってもらいたい。
- (ボランティア団体の意見) ふるさとの山やきれいな水の保全を目的に、里山保全活動を行っている。

市民アンケート・森林所有者アンケートの結果

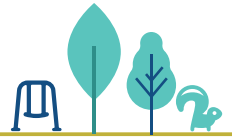
市民アンケート結果

- 「東広島市の森林にとって重要な機能は何か (3つ選択)」の問いに対して、全回答者数の46%が「水を蓄え、きれいにする」を選択。「山崩れや洪水などの災害を軽減する」(同50%)に次いで高い傾向にあった。
- 「どのように森林と関わりたいか」の問いに対して、「水や空気など間接的に森林の恩恵を受けられればいい」との回答が最も多かった。

森林所有者アンケート結果

- 「森林の機能について最も期待すること」については、「水を貯えきれいにする働き」との回答が20%であり、「山が崩れるのを防ぐ働き」(38%)に次いで高い傾向にあった。

③ 保健・レクリエーション機能、文化機能



保健・レクリエーション機能及び文化機能は、貴重な自然環境の保全や森林とのふれあいの場となる機能です。この機能における森林は伝統文化の基盤となり、自然環境の学びのフィールドともなります。

本市は都市部とのアクセスがよく、市民が気軽に森林と親しめる場所が多くあります（憩いの森公園、深山峡など）。これらの市民が森林と親しむ機会の増加や環境教育の場としての活用などを推進していくためには、フィールドとなる森林を適切に保全していく必要があります。

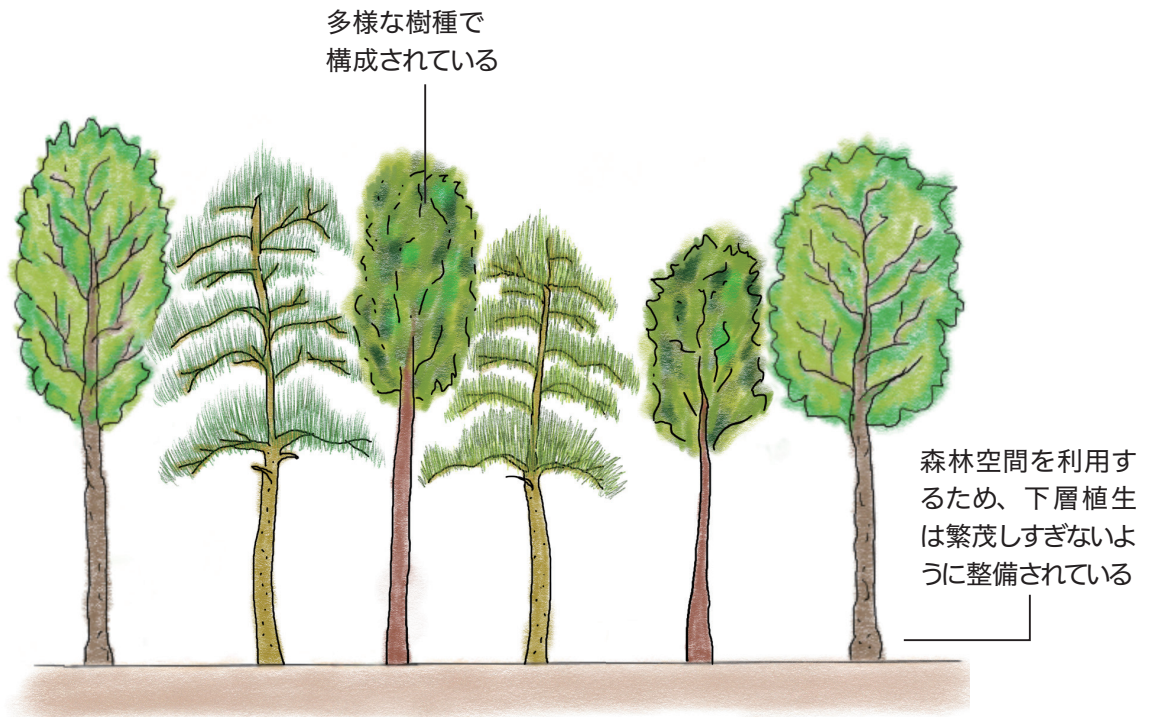
人と自然が
ふれあう場となる

森林の学びの場や
貴重な自然環境を
保全する場となる



期待する機能	山に入るきっかけや環境教育のフィールドとなる機能
対象森林	身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、住民などに憩いと学びの場を提供する森林
ゾーニング方針 (設定基準)	(1) 保安林（保健）、自然公園（自然公園法指定の森林に加え、市が指定する自然公園を含む） (2) 多様な主体（市民・企業）が主導で管理・活用する森林
森林管理方針	身近な自然とのふれあいの場や、憩いと学びの場に適した空間として活用できる開放的な森林として、市民や企業による除間伐や下草刈りなどの森林管理を推進する。





協議会・部会・関係者ヒアリングでの主な意見

- イベントを募集するとすぐに定員になるなど、レクリエーションとして活用したい市民のニーズはある。
- 森づくり事業で整備した新池周辺は憩いの場として地域で保持したい。
- 子ども達を山で環境教育させるにもフィールドが必要だ。
- 健康面での山使いが良いと思っている。

市民アンケート・森林所有者アンケートの結果

市民アンケート結果

- 「どのように森林と関わりたいか」の問に対して、「森の中でのレクリエーションや散策、森林浴などに参加したい（31%）」との回答が「水や空気など間接的に森林の恩恵を受けられればいい（37%）」に次いで多い傾向にあった。
- 「森林の機能維持のため、手入れ・維持管理を誰が行うべきと思うか」の問いに対して、「森林所有者以外の市民も参画して、実施する（43%）」との回答が、「行政（市）が実施する（61%）」に次いで多い傾向にあった。

④ 生活環境保全機能



森林には私たちが快適な生活を過ごすために必要な「生活環境」を守る機能（防風・大気浄化・気候緩和・防音）があり、一般的には「快適環境形成機能」と言われています。森は、蒸発散作用によって、夏の気温を低下させ、都市部におけるヒートアイランド現象を抑えるなど、地球の気温の変化を緩和するはたらきを持っています。また、樹冠による塵埃^{じんあい}の吸収や汚染物質の吸収機能、樹林帯による防音効果なども備えており、快適な生活環境の形成に貢献しています。

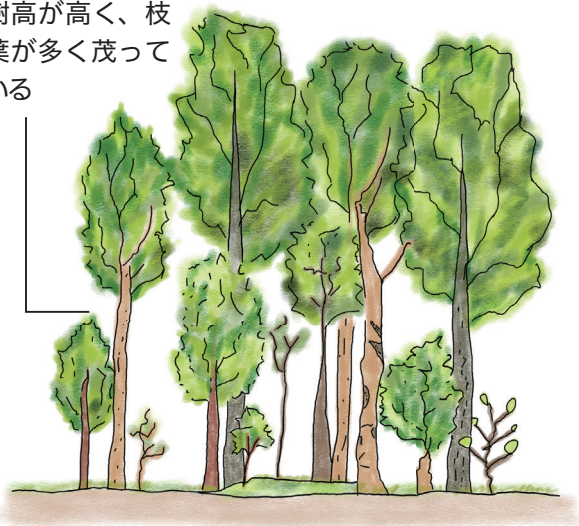
本市ではこれらの機能について、特に市民の生活環境に近い森林で発揮することを踏まえ、「生活環境保全機能」の名称で区分します。具体的には、他の4つの機能に区分されない森林で、生活環境に近い森林を対象としています。



期待する機能	快適な生活を過ごすために必要な「生活環境」を守る機能
対象森林	その他広葉樹林で施業を行わず、自然の遷移・回復に任せる森林
ゾーニング方針 (設定基準)	(1) 保安林（飛砂、防風、潮害、防霧）、都市風致地区 (2) 他の4つの機能（①②③⑤）に分類されておらず生活圏に近い森林
森林管理方針	必要に応じて森林整備を行うが、管理が不要な場合は自然の遷移に委ねる

生活環境保全機能が発揮された森林のイメージ

樹高が高く、枝葉が多く茂っている



市民アンケート・森林所有者アンケートの結果

市民アンケート結果

- 「どのように森林と関わりたいか」の問に対して、「水や空気など間接的に森林の恩恵を受けられればよい」との回答が最も多い傾向にあった。

所有者アンケート結果

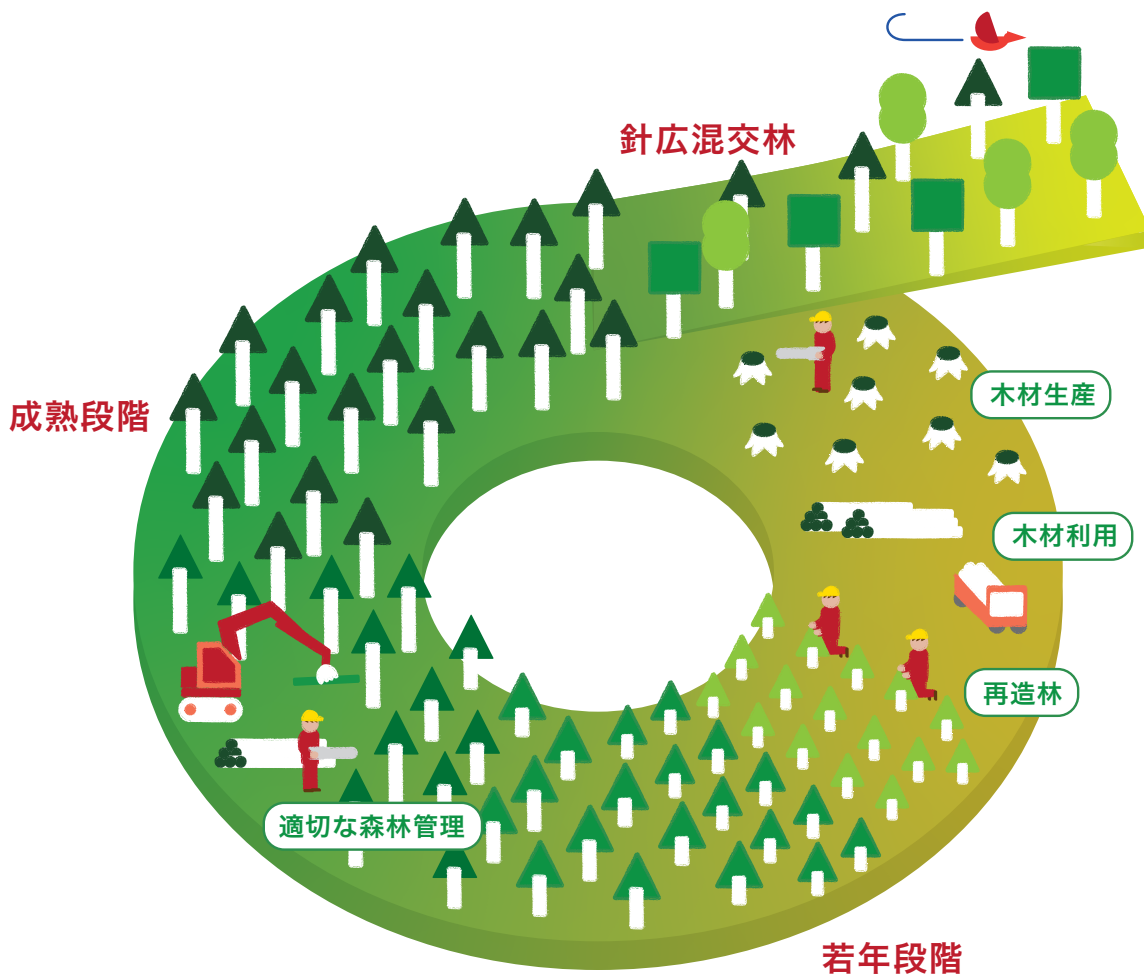
- 「所有している森林の方針」について、「景観を保持したい」との回答が最も多い傾向にあった。

⑤ 木材等生産機能



木材等生産機能は木材や食料（きのこなどの林産物など）、工業原料や工芸原料などの資源を生産する機能で、経済活動へ直接的に関係する機能です。

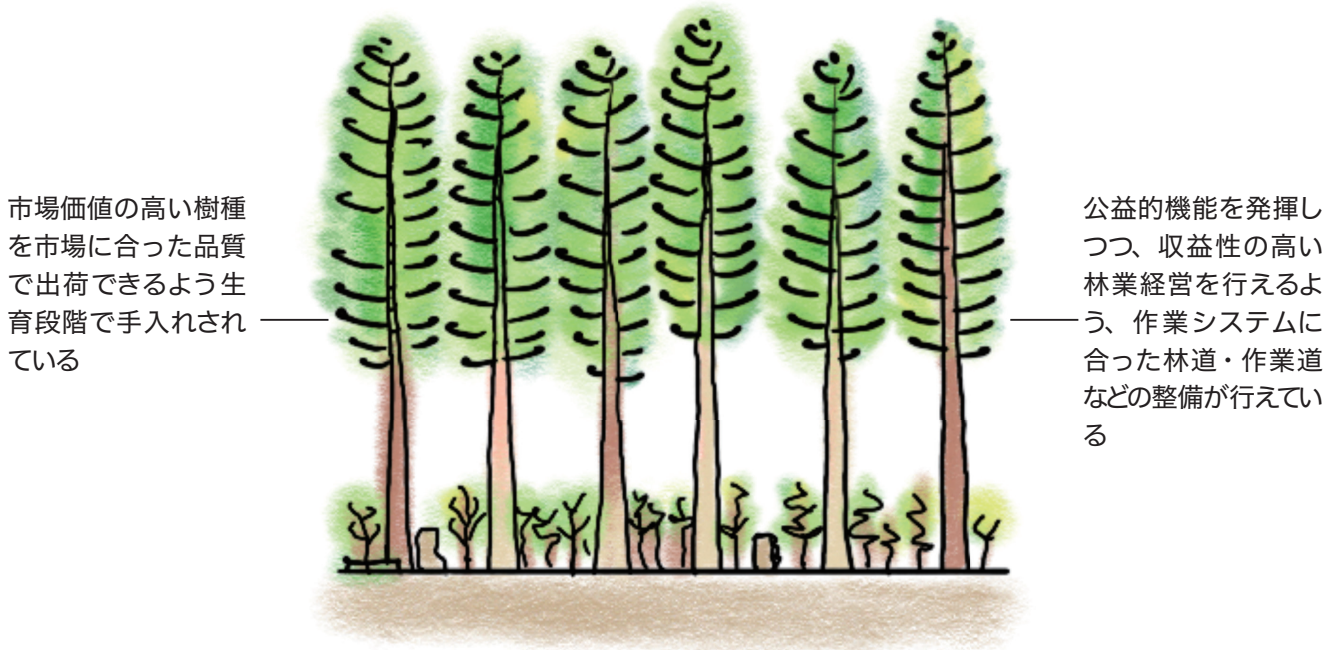
客観的指標には、「木材をどれだけ効率的に収穫できるか」と、「収穫可能な木材の量」が重要です。そこで、木材等生産機能では、「面積当たりの材積（人工林の場合）」と、「木材の伐採・搬出のコストに影響する因子（道からの距離と斜面傾斜）」などにより属地的に評価を行い、「木材等の資源を循環しながら管理する森林」と「木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林」のエリアを設定します。



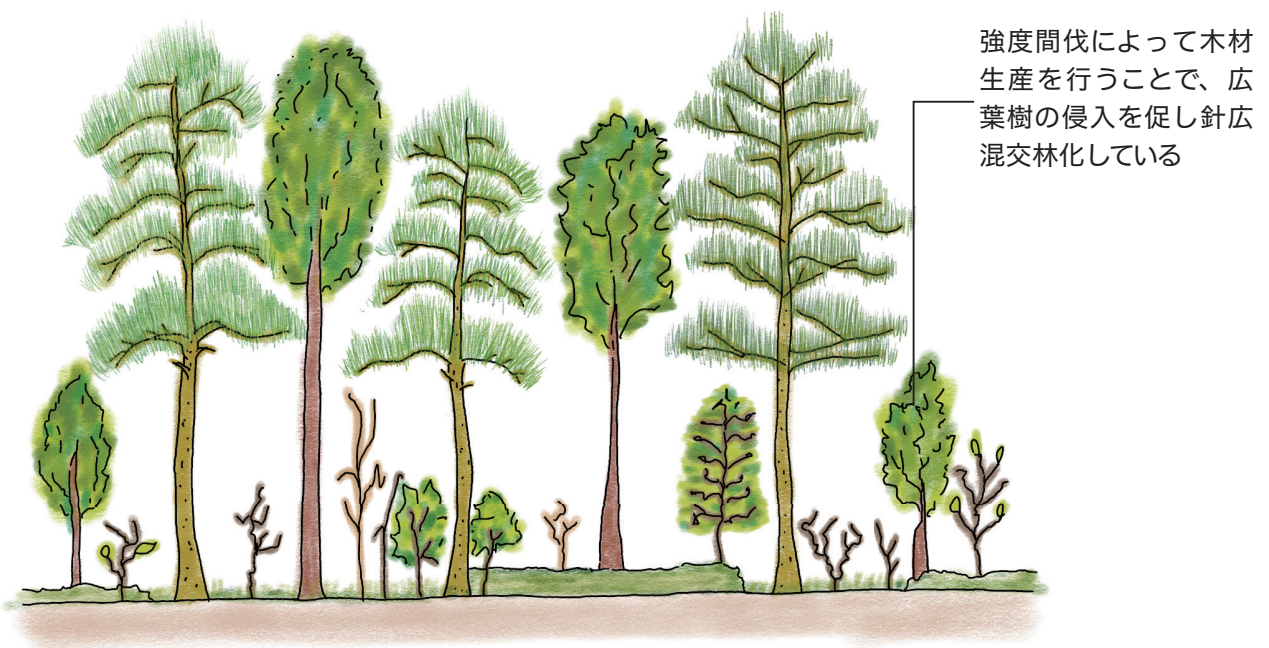
<p>期待する機能</p>	<p>林業適地において、収益性の高い木材などの生産を行う機能</p>
<p>対象森林</p>	<p>【木材等の資源を循環しながら管理する森林】 木材などの資源利用により収益性を確保しながら管理することができる森林</p> <p>【木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林】 将来的に再度木材生産などを目的とすることが適していない森林</p>
<p>ゾーニング方針 (設定基準)</p>	<p>【木材等の資源を循環しながら管理する森林】 (1) 森林経営計画などに基づき計画的な施業を行うなど、収益性の面から持続的な木材生産を行う（予定のある）森林 (2) 財産区・生産森林組合などで木材生産の計画がされている人工林 ※但し、木材生産を行わない森林を除く</p> <p>【木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林】 スギ・ヒノキなどの人工林のうち、木材利用が可能な森林で、上記対象とならない森林</p>
<p>森林管理方針</p>	<p>【木材等の資源を循環しながら管理する森林】 公益的機能の発揮を図りつつ適切な森林施業及びそれに必要な基盤整備を行う。 （施業は地域森林計画に定める育林体系による） ※林産物生産など森林を活用した他の経済活動も含む</p> <p>【木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林】 光環境を改善するための強度間伐を実施し、広葉樹稚樹の定着と成長を促すことで、針広混交林へ誘導する。広葉樹稚樹が発生しない場合は、低木性広葉樹や草本を誘導する。</p>



木材等の資源を循環しながら管理する森林のイメージ



木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林のイメージ



協議会・部会・関係者ヒアリングでの主な意見

- 施業地が限られている問題がある。素材生産に向けて活用できる山はあるが、伐期に達していない。
- 急斜面や岩場が多く、造林も活発ではない。小規模の人工林が分散しているので、素材生産には向かない森林が多い。

地球環境保全機能とは

森林は光合成により二酸化炭素を吸収し、炭素を固定することで、地球の温暖化防止に重要な役割を果たしています。地球環境保全機能とは、温暖化の原因である二酸化炭素の吸収や蒸発散作用により、地球規模で自然環境を調節する機能のことです。

私たちは、暮らしの中で排出する二酸化炭素を抑制できても、「ゼロ」にすることはできません。植林や間伐を適切に行うことにより、森林による二酸化炭素の吸収効果を高めることが重要です。

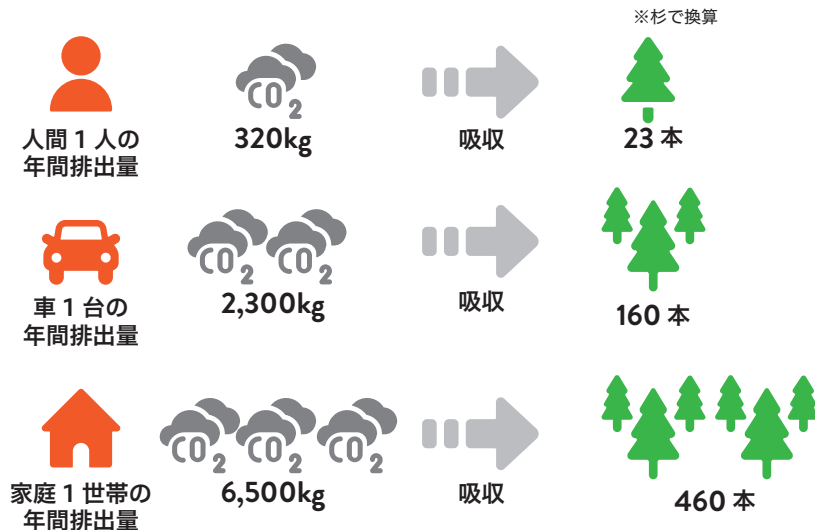
日本の森林が、光合成によって吸収する二酸化炭素は年間約1億トンと言われており、これは年間日本で排出される二酸化炭素排出量の8%、国内の全自家用乗用車の排出する量の7割に相当します。

日本の森林が有する地球環境保全機能の評価額



資料：林野庁「日本の森林・林業の今」

暮らしの中で排出する二酸化炭素



資料：フォレスト・サポーターズ「豊かな森林の役割」より作成

3

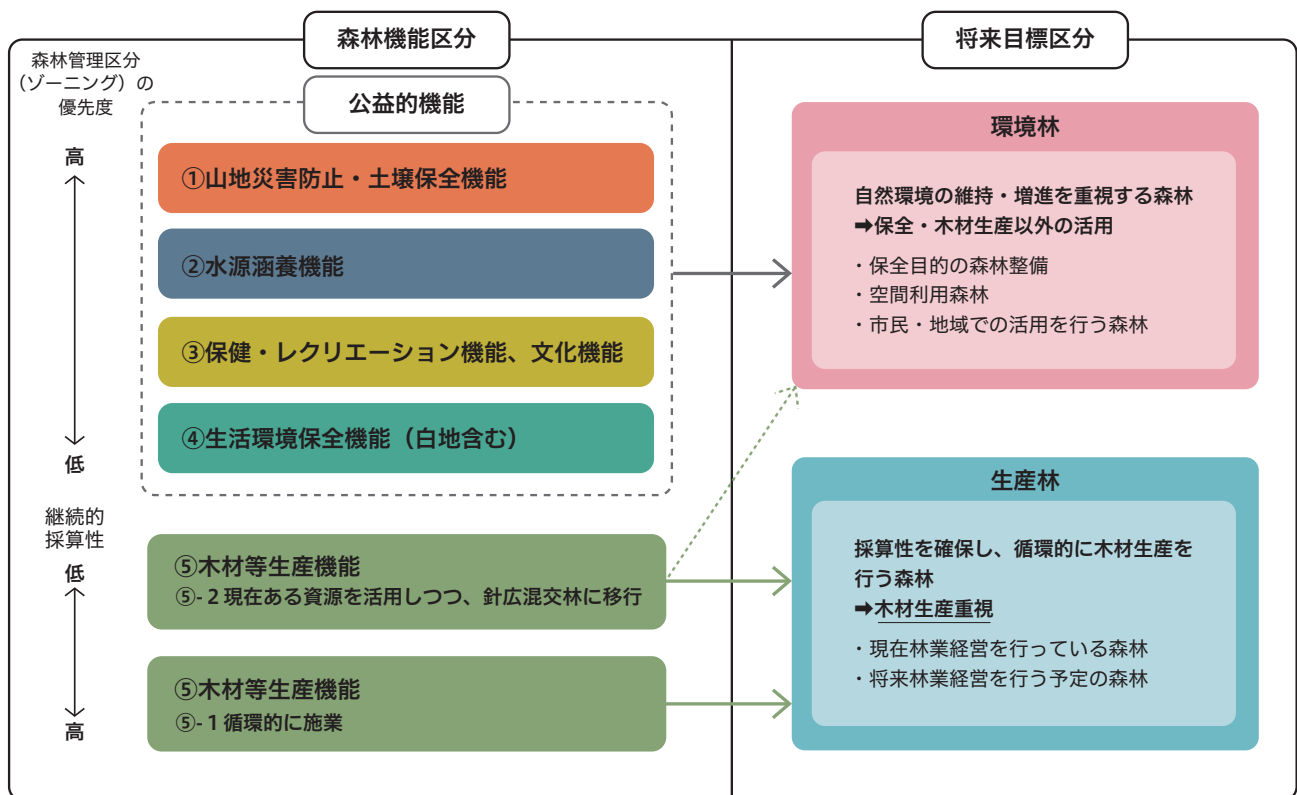
ゾーニング方針と 目指す森林の姿（環境林・生産林）との関係性

ゾーニング方針により、「木材等の資源を循環しながら管理する森林として定めたもの」を「生産林」、それ以外の「木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林」を自然環境の維持・機能の増進を図るものとして「環境林」に区分します。

①～④の機能は、原則、優先度に基づきゾーニングするものとし、全て公益的機能として環境林に位置づけられます。

⑤の木材生産機能については、⑤-1は循環的に木材生産を継続するものとして「生産林」に位置づけられますが、⑤-2は現在の資源活用後、公益的機能を発揮する森林として「環境林」に位置づけられます。

5つの重視する機能の考え方



ゾーニングの設定基準及び管理方針一覧

東広島市で重視する森林の機能	一般的な目的	東広島市の現状と期待される機能	対象森林
<p>①山地災害防止・土壌保全機能</p> 	<p>山崩れや土砂流出などの山地災害を防止する働き。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●平成30年7月豪雨で多くの山地災害が発生（245箇所）。 <p>→表層土壌の流出を防止する機能。 （森林整備による深層崩壊防止効果は限定的）</p>	<p>山地災害の発生により人命・人家などへの被害のおそれがある又は過去に発生したことがある森林など、土砂の流出や土砂の崩壊の防備などの働きを重視すべき森林</p>
<p>②水源涵養機能</p> 	<p>森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、河川の流量を安定させる機能。雨水が森林土壌を通過することで水質を浄化する機能もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●災害防止の観点も含め、森林の保水力や河川の水量調整機能を高める必要がある。 ●日本三大銘醸地でもあり水質保全の必要がある。 ●自己水源の確保が難しく、給水量の90%以上を県の水供給事業で賄っている。 <p>→洪水被害低減と良質な水を安定供給する機能。</p>	<p>下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌が求められる森林</p>
<p>③保健・レクリエーション機能、文化機能</p> 	<p>貴重な自然環境の保全や森との触れ合いの場となる機能。自然環境などを学ぶ場となる機能。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●都市部とのアクセスがよく、気軽に森林と親しむ場所が複数ある（憩いの森公園、深山峡など）。 ●森林環境教育や里山の恵みの利用の場、機会が求められている。 <p>→山に入るきっかけや環境教育のフィールドとなる機能。</p>	<p>身近な自然や自然とのふれ合いの場として適切に管理され、住民などに憩いと学びの場を提供する森林</p>
<p>④生活環境保全機能（快適環境形成機能）</p> 	<p>気候変動を穏やかにし、塵埃などを吸着するなど快適な生活環境の形成に寄与する機能。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の身近にある森林で、積極的に施業は行わないが、現状を維持する必要がある。 <p>→快適な生活を過ごすために必要な「生活環境」を守る機能。</p>	<p>その他広葉樹林で施業を行わず、自然の遷移・回復に任せる森林</p>
<p>⑤木材等生産機能</p> 	<p>木材などを生産する働き。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スギ・ヒノキ人工林の割合が低く、多くは伐期ではないことから、効率的木材生産の体制が確立できていない。 ●松枯れの後の森林の多くは放置されている。 ●森林率は平均的で、バイオマスやマテリアル利用も含めた地域材の利活用の動きもある。 <p>→林業適地において、収益性の高い木材生産を行う機能。</p>	<p>【木材等の資源を循環しながら管理する森林】 木材等の資源利用により収益性を確保しながら管理することができる森林</p> <p>【木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林】 将来的に再度木材生産などを目的とすることが適していない森林</p>

ゾーニング方針（設定基準）	備考	森林管理方針	
(1) 保安林（土流、土崩、なだれ、落石）、砂防指定、急傾斜地、地すべり防止 (2) 山地災害危険地区、土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域・特別警戒区域 (3) 防災重点ため池の上流部	(2)(3)についてはハザードマップ、ため池マップから整理する。	【①、②共通の森林管理方針】林冠が詰まっておらず適度に陽光を入れ、立地環境に適合した下草が維持され、かつ林地面が荒らされず土壌が豊かで、常に落葉・落枝が地表面を被覆している森林を目指し、積極的な間伐を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 谷筋の中央は流木とならないよう劣勢木を除去し、大径木については流木の発生を抑止するために残す。 ● 小規模崩壊の恐れがある場合には施設整備を行う。 ● 特に上層木からの落葉落枝、枯死木の堆積による森林土壌の形成・発達を重視することで、浸透・保水能力があり安定した流量を下流に供給できる森林を目指す。 ● 積極的な間伐により蒸発散量を減らし、良好な光環境を維持する。
(1) 水源林造成事業実施区域 (2) 保安林（水かん、水害、干害） (3) 上記に準ずる機能を有する森林			
(1) 保安林（保健）、自然公園（自然公園法指定の森林に加え、市が指定する自然公園を含む） (2) 多様な主体（市民・企業）が主導で管理・活用する森林	アクセスや環境面で市民が利用しやすい森林、観光的に魅力ある自然景観を有する森林。	身近な自然とのふれあいの場や、憩いと学びの場に適した空間として活用できる開放的な森林として、市民や企業による除間伐や下草刈りなどの森林管理を推進する。	
(1) 保安林（飛砂、防風、潮害、防霧）、都市風致地区 (2) 他の4つの機能（①②③⑤）に分類されておらず生活圏に近い森林	現在(1)の設定基準への該当なし。	必要に応じて森林整備を行うが、管理が不要な場合は自然の遷移に委ねる。	
(1) 森林経営計画などに基づき計画的な施業を行うなど、収益性の面から持続的な木材生産を行う（予定のある）森林 (2) 財産区・生産森林組合などで木材生産の計画がされている人工林 ※但し、木材生産を行わない森林を除く	基本的には短中期に木材生産が可能な森林だが、目指す森林によっては、長伐期施業を行う森林も含める。 具体的設定基準は公的造林地若しくは森林経営が行われている森林とし、 森林組合と協議の上、属地的に指定する。 ※林道からの距離500m傾斜35度以内。土壌の条件は、ゾーニングでは考慮しない。	【木材等の資源を循環しながら管理する森林】 公益的機能の発揮を図りつつ適切な森林施業及びそれに必要な基盤整備を行う。 （施業は地域森林計画に定める育林体系による） ※林産物生産など森林を活用した他の経済活動も含む。	
スギ・ヒノキなどの人工林のうち、木材利用が可能な森林で、上記対象とならない森林		【木材等の資源を活用した後、公益的機能を重視する森林】 光環境を改善するための強度間伐を実施し、広葉樹稚樹の定着と成長を促すことで、針広混交林へ誘導する。広葉樹稚樹が発生しない場合は、低木性広葉樹や草本を誘導する。	

